

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000284	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	株式会社 アルデバラン		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム アゴラ		
所在地	(259-1212) 平塚市岡崎6200番地の1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1人1人の個性や生活リズムを重視し、自宅での生活の延長で施設で過ごして頂きたいと思えます。見守りのある環境で、ご利用者の体調変化に気が付く事が出来ません。当施設は看護小規模と訪問看護の併設施設である為、ご利用者様の変化に柔軟に対応出来る体制を整えています。コロナ過ではありますが利用者様、ご家族に安心して頂きたいと思えます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年2月17日	評価機関 評価決定日	令和5年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「平塚」駅北口または小田急電鉄の「伊勢原」駅南口からバスで20～30分の場所にあります。事業所最寄りのバス停は「あいの坂」です。バス停より徒歩5分の緑の多い静かな住宅街に立地し、広い敷地と駐車場の事業所です。建物は鉄筋作り3階建ての2.3階部分にあるグループホームです。法人の運営する看護小規模多機能型居宅介護と訪問看護の事業所も1階に併設しています。

<優れている点>

利用者が家庭的な雰囲気の中でいつもの生活習慣を乱さずに1日を過ごせる事に注力し、支援に努めています。静かな呼びかけで利用者との違和感のない距離間と日頃の言葉のやり取りには家族間にあるような雰囲気を作り出しています。利用者への尊敬を日々の支援の中で丁寧に表します。利用者の体調変化などには同一ビル内に勤務の看護師が緊急対応も行える体制になっています。

<工夫点>

職員間で、声掛けや支援作業での相互確認、また時間帯で手薄になった場所には即、管理者が支援に入るなど、風通しの良いチームワークに努めています。入浴介助の場面では利用者の興味と好みを引き出すことにも注力しています。色々な入浴剤を用意し、「なぜ、この入浴剤なんですか？」から話題を広げたり、共有スペースでは聞けない利用者の本音を聞ける機会にもしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム アゴラ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念はステーションに貼ってありいつでも確認できる様になっています。確認、共有し実践出来るよう努力しています。	施設理念を「「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人一人のその人らしさを大切に生活支援に努めます」としてあります。日々の支援の中やそれぞれの会議の中、研修時など、あらゆる機会に理念に立ち戻り、話し合いの機会を持ち、支援に反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ過ということもありなかなか交流は出来ていない現状です。	自治会に加入しています。回覧で地域の情報を得ています。コロナ禍が少し落ちついてきた現在は、自治会活動も徐々に再開している事より、管理者は近隣の高齢者の認知症状相談などの介護活動を地域へ情報発信をする予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ過ということもあり、地域への発信が出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ過で委員の方とお会いする事ができませんが、書面で送るようにしています。	構成委員は自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所管理者と職員です。コロナ禍の今は書面会議で事業所での運営や活動の報告を行い、感想や意見を、郵送、電話、ファックスなどで貰っています。今年は対面開催に向けて新規の討議企画や準備手順を模索しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時には連絡を取り丁寧に対応が出来るように心がけています。	平塚市役所、生活福祉課や高齢福祉課と連携し、都度の相談をしています。3ヶ月に1度、役所の訪問を受けています。要介護度の変更時や介護報酬の加算などでは関係部署と相談し、正確に申請することに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアル本、資料等に目を通すようにしています。身体拘束の無い自由なケアに心がけています。	管理者が身体拘束のマニュアルを職員に渡した後一定期間を置いて面談し、その内容についての理解度をチェックしています。OJTではベテラン職員がグレーゾーンでの支援の在り方を教えています。管理者は定期的な身体拘束禁止委員会で過去事例の紹介や行政の資料に基づいたケーススタディ（実際に起こった出来事を詳しく分析し、問題解決に必要な一般的法則や原理を引き出す研究法）の学習を行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の実施、スタッフ間の声かけて、報告、相談、出来るようにしている。	管理者は虐待防止委員会の3ヶ月に1度の開催に加え、月例のフロア会議でも虐待や身体拘束事例への考察をしています。細かな事の一つずつ学習し、丁寧な学習指導を心掛けています。	虐待防止委員会の中で意欲的に事案ケーススタディをして、支援の質的な向上を日々に行うことを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会を持ってない為実践出来てない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、介護専門員が十分な説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様ご家族様の意見を反映して、管理者、職員でより良い介護を目指しています。	コロナ禍により、電話で意見を聞くことが多くなっています。面会時間の設定や、リハビリパンツへの使用移行などの意見が出ています。本人や家族の意見を傾聴する事に注力しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の時以外でも相談に応じてくれます。	備品の購入、修理は管理者の決済使用額内であれば優先的に行う方針で、職員の要求に応じています。運営の在り方などでは一人ひとりと面談して行います。年2回の人事考課査定面談時に繋がる日頃からの面談で、意見交換や個人事情聴取などを積極的に行います。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表はどの様に自分たちを評価しているかは、分らないが有給休暇等は取りやすい環境です。	法人は、資格取得を積極的に支援します。多くの資格取得の経験から、取得の意味とキャリア形成での資格取得の優位性などについてのアドバイスもしています。受講の際は資格取得支援を実施しています。	人事考課時のフィードバックで期待する来期目標の伝達技術の向上が期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で研修があれば参加出来る。管理者により2階、3階の職員の配置によって指導の必要な職員のスキルアップに努めている。	法人としての研修プログラムを整備しています。研修プログラムにより知識や理解を深め人材育成に努めています。	慢性的な人員不足により、十分な内外での研修の実施が今は一時的に停滞があります。充実した研修への取り組みを期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者の方との交流は出来ない。 同一施設内での交流は出来る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時はいつも以上に気を配り記録も丁寧にとどのスタッフもわかり共有できて、本人の安心につながるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様と、スムーズな関係を保ち要望に耳を傾けて対応するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、介護専門員が本人とご家族に色々なサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様が出来ることは手伝って頂き同じ目線で話しあいスムーズな関係を目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に中々会うことが出来ない状態なので介護職員が本人を支え家族との関係を築いて行きます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族と協力しながら出来ることは支援を続けています。	コロナ禍により予約制の面会を実施しています。電話、手紙の交信は支援しています。関係継続に向けた外への発信を限定的にし、利用者のワクチン接種を優先しています。コロナ終息後の対応を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を把握し座席等を工夫しながら皆さんが心地良く過ごせるように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者、介護専門員に伝えていますが家族の経過の把握が出来ていない所もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員間で情報を共有し利用者様がその人らしい暮らしが出来て過ごして頂く様に努めていきたい。	職員はできるだけ頻繁に話しかけ、利用者の思いや意向を把握するよう努めています。居室で1対1の時や入浴時などに思いを聞いています。今日の服装や、おやつに食べたいものなど、気軽に話せるようにと心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルやアセスメントシート等を活用しながらご本人からも昔のお話を聞いたりし把握に伝えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録を活用しながら職員間でも情報を共有し把握に努めて居ます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人に合ったモニタリングを行っています。職員から意見をもらい必要時にそれを反映しています。	介護計画は、入居時に作成した後は6ヶ月をめどに更新していますが、日々モニタリング表に記載して変化に注意しています。体調や、その他に変化が見られた場合には医師や家族とも相談の上で介護計画を更新し、状況に応じた介護をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に記載し職員間で情報を検討し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスを保ちつつ柔軟な支援に取り組んでいきたいと思えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握する事が出来て居なく支援出来ていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族対応で受診に行く方、往診を希望する方、希望に応じて対応できるように支援しています。	事業所の契約医以外でも希望の掛かりつけ医を選択することができます。現在3ヶ所のクリニックからそれぞれ月2回の訪問診療を受けています。事業所の看護職員の他、同一施設内の訪問看護ステーションから必要な時は随時対応を受けることができる体制ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師への相談は随時行うことが出来る。必要時には直接ご利用者様に対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りはまだ足りない所が多々あると思いますが入院対応となった場合はご家族が安心出来様に支援したいと思います。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	足りない部分が多々あると思うので、改めて情報を共有していける様に取り組んでいきたいと思っています。	事業所の方針を「重度化対応・終末期ケア対応指針」として文書化し、契約時に説明し同意を得ています。終末期段階に至った際には、状況に応じて同一施設内の看護小規模多機能型居宅介護施設を紹介したり特別養護老人ホームや介護老人保健施設を紹介しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応についてはマニュアル作成をし誰でも対応できるようにしていきたいと思っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は定期的に行っているが、職員全員の参加が出来ていない。	避難訓練は同一施設内の看護小規模多機能事業所とともに実施しています。コロナ禍にあって地域との連携ができず、職員と利用者で行なっています。コロナの位置付けも変わるので改めて地域との連携強化を計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の人格やプライバシーを損なわれない対応に心がけています。	介護に当たって年長者への接し方が特に大事との管理者の思いから、接遇の研修とOJTに力を入れています。不適切な介護があった時には職員が互いに注意し合えるよう、職員のスキルに合わせたシフト編成をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を表し、できる様に注意を払い、気持ちよく過ごせる環境作りをしていきたいと思ひます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の人数によっては希望に添えないときもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは、いつも清潔な服装に心がけています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ過により食事の準備は一緒に出来ていないが、テーブル拭き等は手伝って頂いています。	献立と食材調達は業者から調達し、調理は職員が行なっています。利用者はテーブル拭きなどできる範囲で参加し、力を発揮しています。感染症予防から外食が出来ない中、クリスマスや正月には行事食を用意しています。おやつを作ったり利用者のリクエストに応え購入して対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を利用して食事量水分量をどの職員も確認出来るようにしています。定時以外の時間も声掛けして補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行なっています。介助が必要な方もそうでない方も見守り確認しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄をなるべく自立に向けて支援しています。失禁が多くなって来た利用者様については職員間で情報を共有し対応を相談しながら支援しています。	排泄は利用者のパターンやサインを把握し、できるだけ適切なタイミングで誘導しています。オムツの常時使用者は少なく、状態に応じて夜間のみリハビリパンツを使用しています。一日の水分摂取量には注意を払っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘時には看護師や主治医に相談しながら薬を調整し、水分摂取等を促しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の予定は決めてあるが、ご本人の体調等によっては日付け変更等で対応しています。	入浴は週2回午前中が基本ですが、利用者の体調や要望によって柔軟に対応しています。2階にリフト浴が備えられ、3階の利用者も必要に応じてリフト浴を利用しています。入浴好きではない利用者には職員が工夫しながら誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	主治医と相談し薬の調整もしますが眠れない時は起きて頂き日中の活動を増やす様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬事書はいつでも確認出来る場所がありますが、職員によっては理解にばらつきがあると感じます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出が出来ない状態ではありますが施設内で職員がおやつを作ったりしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過である事職員の人数に余裕がない状態で外出が出来ていない。お花見等に出かけられるようにしたいと思います。	建物前方には、畑もあり自然が残る外気浴に適した環境となっています。コロナ禍のため敷地外への散歩や外出は中止しています。コロナ分類変更後には、車でのお花見などを計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額の金額を所持している方いますがほとんどの方は預かり対応にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時は電話、手紙の対応しています。お誕生会の写真や手紙をご家族に送らせて頂いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間に生活感や季節感に応じて飾りを入れ替えたりしています。	共有スペースは明るく清潔が保たれています。職員の三味線演奏や、ニュースを題材にした会話など、楽しく過ごす場になるように職員は日々工夫しています。廊下の壁には塗り絵や貼り絵、レクリエーション活動時の利用者の写真を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースに限りがある為、居場所の工夫が難しいと思います。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人と家族でレイアウトをして頂き、居心地良く過ごせるような工夫、支援をしています。	居室は、ベッド、エアコン、カーテンが備えられている洋室タイプとなっています。利用者はテレビやタンス、その他思い出の品々を自由に持ち込んでいます。ベッド脇には簡易センサーが取り付けられ、夜間の転倒防止に役立っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアのカーテンを閉めたり、広告でゴミ箱を作ったり、新聞紙を畳んだり出来る事をして頂き自立した生活が送れる様に工夫、見守りをして行きたいです。		

事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム アゴラ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念はステーションに貼ってありいつでも確認できる様になっています。確認、共有し実践出来るよう努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ過ということもありなかなか交流は出来ていない現状です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ過ということもあり、地域への発信が出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ過で委員の方とお会いする事ができませんが、書面で送るようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要時には連絡を取り丁寧に対応出来るように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアル本、資料等に目を通すようにしています。身体拘束の無い自由なケアに心がけています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の実施、スタッフ間の声かけて、報告、相談、出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会を持ってない為実践出来てない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、介護専門員が十分な説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様ご家族様の意見を反映して、管理者、職員でより良い介護を目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の時以外でも相談に応じてくれます。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表はどの様に自分たちを評価しているかは、分らないが有給休暇等は取りやすい環境です。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で研修があれば参加出来る。管理者により2階、3階の職員の配置によって指導の必要な職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者の方との交流は出来ていない。 同一施設内での交流は出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時はいつも以上に気を配り記録も丁寧にどのスタッフもわかり共有できて、本人の安心につながるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様と、スムーズな関係を保ち要望に耳を傾けて対応するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、介護専門員が本人とご家族に色々なサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様が出来ることは手伝って頂き同じ目線で話しあいスムーズな関係を目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に中々会うことが出来ない状態なので介護職員が本人を支え家族との関係を築いて行きます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族と協力しながら出来ることは支援を続けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を把握し座席等を工夫しながら皆さんが心地良く過ごせるように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者、介護専門員に伝えていますが家族の経過の把握が出来ていない所もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員間で情報を共有し利用者様がその人らしい暮らしが出来て過ごして頂く様に努めていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルやアセスメントシート等を活用しながらご本人からも昔のお話を聞いたりし把握に伝えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録を活用しながら職員間でも情報を共有し把握に努めて居ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人に合ったモニタリングを行っています。職員から意見をもらい必要時にそれを反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に記載し職員間で情報を検討し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスを保ちつつ柔軟な支援に取り組んでいきたいと思えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握する事が出来て居なく支援出来ていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族対応で受診に行く方、往診を希望する方、希望に応じて対応できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師への相談は随時行うことが出来る。必要時には直接ご利用者様に対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りはまだ足りない所が多々あると思いますが入院対応となった場合はご家族が安心出来様に支援したいと思います。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	足りない部分が多々あると思うので、改めて情報を共有していける様に取り組んでいきたいと思っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応についてはマニュアル作成をし誰でも対応できる様にしていきたいと思っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は定期的に行っているが、職員全員の参加が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の人格やプライバシーを損なわれない対応に心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を表し、できる様に注意を払い、気持ちよく過ごせる環境作りをしていきたいと思えます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の人数によっては希望に添えないときもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは、いつも清潔な服装に心がけています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ過により食事の準備は一緒に出来ていないが、テーブル拭き等は手伝って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を利用して食事量水分量をどの職員も確認出来るようにしています。定時以外の時間も声掛けして補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行なってます。介助が必要な方もそうでない方も見守り確認しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄をなるべく自立に向けて支援しています。失禁が多くなって来た利用者様については職員間で情報を共有し対応を相談しながら支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘時には看護師や主治医に相談しながら薬を調整し、水分摂取等を促しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の予定は決めてあるが、ご本人の体調等によっては日付け変更等で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	主治医と相談し薬の調整もしますが眠れない時は起きて頂き日中の活動を増やす様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬事書はいつでも確認出来る場所がありますが、職員によっては理解にばらつきがあると感じます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出が出来ない状態ではありますが施設内で職員がおやつを作ったりしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過である事職員の人数に余裕がない状態で外出が出来ていない。お花見等に出かけられるようにしたいと思います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額の金額を所持している方いますがほとんどの方は預かり対応にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時は電話、手紙の対応しています。お誕生会の写真や手紙をご家族に送らせて頂いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間に生活感や季節感に応じて飾りを入れ替えたりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースに限りがある為、居場所の工夫が難しいと思います。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人と家族でレイアウトをして頂き、居心地良く過ごせるような工夫、支援をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアのカーテンを閉めたり、広告でゴミ箱を作ったり、新聞紙を畳んだり出来る事をして頂き自立した生活が送れる様に工夫、見守りをして行きたいです。		

2022年度

事業所名 グループホームアゴラ
 作成日：2023 年 4 月 13 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	虐待防止、身体拘束等の研修や会議を設ける事が出来ていなかった。	会議を設ける事が出来なくても、書面で1年に数回研修する。	虐待防止、身体拘束等についてを書面にて配布して職員全員に考えて文字にして頂く。	12ヶ月
2	10	自身の思い込みで仕事をしている職員がいる為色々な研修を受けて頂く。	施設内外の研修に参加してスキルアップする様にする。	法人としても研修をしているので活用する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月